

令和7年11月5日

6年生保護者のみなさま

羽曳野市立はびきの埴生学園

校長 東 浩朗



令和7年度「全国学力・学習状況調査」について

晩秋の候、保護者のみなさまにおかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。また、平素より本校の教育活動にご理解とご支援を賜り、誠にありがとうございます。

さて、今年度実施いたしました、文部科学省「全国学力・学習状況調査」の分析結果について、以下のように報告させていただきますので、よろしくお願ひいたします。

令和7年度「全国学力・学習状況調査」分析結果

1. はじめに

全国の6年生を対象とした「全国学力・学習状況調査」が実施されました。今年度は4月17日に国語・算数・理科が実施されました。この調査結果を分析することで、本校生徒の実態や課題を明確にし、学力向上のための学習指導の改善に活かしていきたいと考えております。

既に配布しました個人結果とあわせてご覧いただき、ご家庭でも本調査の結果についてお話ししていただきますよう、よろしくお願ひいたします。

※今回お知らせする結果は、学力や学習状況の一部分であり、子どもたちの学力や学習状況、学校の教育活動などのすべてを表すものではありません。

2. 結果の分析と今後の課題

(1)国語

【成果】

本校の国語の学力調査結果を全国・府平均と比較すると、いくつかの分野で着実な成果が見られた。特に「知識・技能」に関する問題では、平均正答率が全国・府平均と比較してやや下回るもの、安定した理解が示されている。また、「書くこと」や「読むこと」の一部設問では、全国平均に近い正答率を記録しており、基礎的な国語力が身についていることが分かる。

さらに、選択式問題においては、無解答率が全国・府平均と同程度かそれ以下であり、児童が積極的に問題に取り組む姿勢が見られた。これは日頃の授業での発言や意見交換の積み重ねが反映されていると考えられる。

【課題】

一方で、「思考・判断・表現」に関する設問、特に記述式問題においては、全国・府平均と比べて正答率が低い傾向が見られた。特に、複数の資料をもとに自分の考えをまとめて記述する問題や、理由や根拠を明確にして説明する問題で、やや苦戦している様子がうかがえる。また、無解答率が一部設問で全国・府平均より高い傾向があり、自由記述に対する苦手意識が影響している可能性も考えられる。

【課題克服のために】

授業で短い意見文や説明文を書く機会を増やし、書くことへの抵抗感を減らし、段階的に「理由を明確にする」「根拠を示す」など、思考を言語化する力を育てていく。

他者の考えを聞き、自分の意見を伝える活動を通して、多角的な視点や論理的な説明力を養う。複数の資料や情報を比較・整理し、自分の考えをまとめる活動を取り入れる。これにより、情報を関連付けて考える力や、根拠をもとに説明する力を向上させる。

(2)算数

【成果】

問題形式が選択式の設問において、平均正答率が全国・府平均より高かった。日ごろの授業で反復を繰り返し、基礎・基本の計算問題を大切にしている成果だと考えられる。

【課題】

領域別で「数と計算」の正答率が全国・府平均より低く、また「図形」の正答率が全国・府より低かった。なかでも、コンパスを使った作図や、図形を構成する要素に着目し図形を考察する問題、使いかけのハンドソープが空になるまであと何プッシュすればよいかを考え、式や言葉を使って説明する問題について課題が見られた。

【課題克服のために】

引き続き、基本的な知識・技能の定着や基礎・基本の計算の学習を大切にしていくとともに、式や図などを使って、自分の考え方や理由を書いたり説明したりする活動を日常的に行う。

また、「図形」の領域の授業のなかでは、具体物の使用やタブレット端末を活用するなどして、立体を平面に展開するイメージを持てるよう工夫する。

(3)理科

【成果】

理科の学習においていくつかの領域で着実な成果を上げている。特に「地球」を柱とする領域では、全国・府平均とほぼ同等、もしくはやや上回る結果となった。また、「短答式」の問題では全国・府平均と同等の水準を維持しており、基礎的な知識や技能の定着が見られる。

さらに、「思考・判断・表現」の観点でも全国・府平均に近い水準であり、考える力や表現力も着実に育まれている。

【課題】

一方で、「記述式」問題の正答率が全国・府平均よりも低い傾向が見られた。また、「エネルギー」を柱とする領域の正答率が全国・府平均よりもやや低い結果となった。

【課題克服のために】

「記述式」問題への対応力を高めるため、日々の授業で自分の考えを文章でまとめる活動を増やし、友達同士で意見を交換する機会を設けることで、表現力や論理的思考力を育てる。

また、実験や観察を通じて、エネルギーに関する現象を体験的に学ぶことで、知識の定着と活用力を高め、児童が「なぜそうなるのか」を自分の言葉で説明できるような問い合わせを意識的に取り入れていく。

3. 児童質問紙より

【求められる学力を育む授業をつくる】

設問 「5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたか」

⇒「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と肯定的な回答をした児童の割合は、全国より 10 ポイント、府より 8.4 ポイント低くなっている。

ふりかえりの交流や発表、教師からの声かけなど授業のなかで児童の主体性を育む取組みがさらに必要であると考えられる。

設問 「5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたか」

⇒「発表していた」「どちらかといえば発表していた」と肯定的な回答をした児童の割合は、全国より 4.3 ポイント、府より 4.4 ポイント高くなっている。授業のなかで、自分の考えを順序だてて整理・構成する活動を重ね、ICT を活用した表現の機会を充実させてきたことが、児童が自信を持って発表できる力の育成につながっている成果だと考えられる。

設問 「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができているか」
⇒「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と肯定的な回答をした児童の割合は、全国より 3.9 ポイント、府より 1.8 ポイント低くなっている。授業や特別活動などで自分の意見を伝えたり、人の意見を受け入れたりする経験を学年の発達段階や児童一人ひとりの特性に応じてより意識的に取り入れていく必要があると考えられる。

【自学自習について】

設問 「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできているか」
⇒昨年度より新しく追加された質問で、「できている」「どちらかといえばできている」と肯定的な回答をした児童の割合は、全国より 7.5 ポイント、府より 7.9 ポイント高くなっている。児童が自己調整しながら自分にあつた学習方法を探求する力を身に付け、毎時間の授業におけるふりかえりの充実がその成果として表れていると考えられる。

設問 「学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1 日当たりどれくらいの時間、勉強をしているか」
⇒選択肢のうち一番多かったのが「30 分以上 1 時間以下」であった。学校が推奨している 6 年生の学習時間の 60 分に届いていない児童の割合が全国・府平均より高くなっていた。今後は毎日の宿題に加えて、自主的に学習に取り組む習慣を身につけられるよう、「自主学習ノート展覧会」の開催やタブレット端末の効果的な活用などの取組みをさらに充実させていく必要がある。

4. おわりに

今回の全国学力・学習状況調査の分析より、成果や課題が見えてきました。特に課題については、子どもたちの実態に即した取り組みを進めて行くことで、本校の「めざす子ども像」につながっていくと考えております。

これからも子どもたち一人ひとりの成長を、私たち教職員とともに見守っていただきますよう、よろしくお願ひいたします。